

すいかずら

平成 21 年 3 月 31 日発行

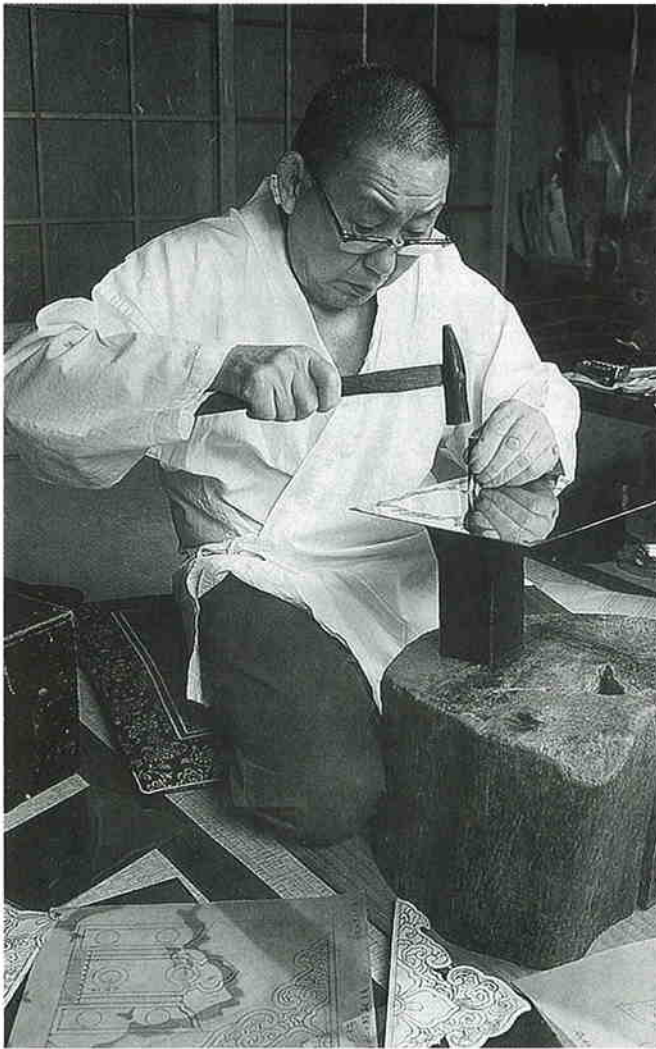
編集 社寺建造物美術協議会

発行人 澤野道玄

〒604-8232 京都市中京区錦小路通
油小路東入る空也町491
(株)さわの道玄 内

TEL (075)254-3885 FAX (075)254-3886

まが
『**紛いもんはあかんで！**
ほんまもんの仕事やないと
あかん！』



国選定保存技術保持者

森本安之助さん ご逝去

銚職の第一人者であり、当協議会前副会長・顧問である森本安之助様が去る3月23日に急逝されました。森本様は日頃より当協議会活動の中心となつてご尽力いただきました。伝統技術の現状を憂いながら常に舌鋒鋭く警鐘を鳴らされていたお姿や言葉は、私達の脳裏に深く刻まれております。現在、森本大隆様が事業を引き継がれ、当協議会の副会長として諸事業に参画していただいております。ここに森本安之助様の御功績をたたえ、衷心より哀悼の意を表します。享年81歳。

略歴

- 昭和3年(1928) 京都に生まれる
- 昭和23年(1948) 京都工業専門学校(現京都工芸繊維大学)建築科卒業
- 二代森本安之助のもとで銚職に就く
- 昭和44年(1969) 三代森本安之助襲名株式会社森本銚金具製作所代表取締役就任
- 昭和61年(1986) 文部大臣より地域文化功勞者として表彰される
- 昭和63年(1988) 京都府知事より京都府伝統産業優秀技術者として表彰される
- 平成3年(1991) 財団法人京都府文化財保護基金功勞賞受賞
- 平成5年(1993) 黄綬褒章受賞
- 平成6年(1994) 日本建築学会文化賞受賞
- 平成9年(1997) 第17回伝統文化ポラ賞受賞
- 平成10年(1998) 選定保存技術保持者の認定を受く
- 平成13年(2001) 勲五等瑞宝章受賞
- 平成15年(2003) 取締役会長に就任

丹塗展示

- 丹塗模型見本
- 丹塗の歴史・丹塗施工について(パネル)
- 施工写真パネル(八坂神社樓門等)
- 塗装材料と塗装見本(6色)

ふるさと文化財の森

『文化財建造物保存活用公開セミナー』

社寺建造物美術協議会報告書

- ◇日時 平成20年11月1日(土)～11月2日(日)
- ◇会場 京都市文化財建造物保存技術センター
- ◇概要 広く一般の方々を対象に、伝統的な建造物の装飾(丹塗、漆塗、彩色)の仕事を紹介させていただいた。彩色、漆塗ではそれぞれ体験コーナーを設けて、講師とも会話をしながら、普段触れることのない素材やモチーフに触れ、文化財建造物装飾の仕事の一端を感じていただいた。

丹塗の展示ブースでは、普段市中で目にする神社仏閣の建物の塗装に、伝統的材料が使用されていることに驚かれる方が多かった。一見、同じ色に見える丹色も建物によって、朱色もしくは弁柄色の混和による独自の色合いにより塗装されている。「いつも

建造物の一角を切り取ったイメージで実際に塗り上げた模型を展示。丹と胡粉の白のコントラストを見ていただく。

見ている神社やお寺もこれからは違う目で見ることができると話しながら見学された方がいた。以外に身近なところで、伝統が活用されていることを感じられた。



固有技術研修会



彩色調査研修会

日 時 平成20年10月20日～25日
開催場所 京都市文化財建造物保存技術研修センター
内 容

実際の絵馬を前にし、現存している彩色塗膜を目視での判断や赤外線調査、光学調査などから絵馬の復元図を作成する。建造物彩色調査作業を行い調査の基本を実習。



京都府京田辺市にある棚倉孫神社さんから「騎馬図」(長沢廬鳳筆・江戸時代)と「楓狩図」(作者不明・文政4年「1821」)の2枚の絵馬をお借りしました。これらの絵馬は、経年により顔料の剥落や風蝕が進行しており、目視では図様を解説しにくい部



分が多く含まれています。材料や道具の扱い方から、線描や顔料が不明な箇所の復元方法までを学ぶ濃い内容の研修会となりました。



第20回

通常総会報告

昨年11月10日、沖繩県青年会館で8会員が集まり通常総会を開催しました。総会に先立ち、全国国宝重要文化財所有者連盟事務局長であり当協議会相談役である後藤佐雅夫先生に「沖繩の伝統建築について」のご高話をいただきました。

総会では4項目の議事がおこなわれ、平成20年度事業中間報告や、平成21年度事業計画案への要望や意見が出され検討されました。また2社の入会希望がありました。審議の結果会則第4章10条の規定により否決となりました。

し合いがおこなわれました。いまだ成果を得るには至りませんが、このような機会を何度も経験することにより、いずれ本会の目的が明確になるのではないのでしょうか。



彩色展示

- 繚綯彩色斗拱実物見本
- 繚綯彩色・彩色の時代的変遷について(パネル)
- 材料について【顔料・胡粉・膠】
- 彩色各種技法の見本8種
- 蓮弁木地に彩色見本2種



「繚綯彩色」とは同系色の色彩の濃淡を量し(ぼかし)を問わずに段階的に区切りながら塗る彩色技法で、平塗りでありながら立体的効果を生み出す工夫である。実際の彩色現場では斗や肘木はもろんのこと、描かれている唐草や牡丹の花、鳥の羽根や龍の鱗までもが繚綯彩色の手法で表現されている。繚綯彩色なくしては社寺における建造物彩色は成立しえないともいえる。



8種の彩色技法見本と2種の蓮弁木地彩色見本を並べることにより、彩色技法の幅のあるパリエーションを見せることが出来た。絵具を盛上げる「置き上げ彩色」、金箔を併用した「生彩色」などの技法見本が製作工程の順序に基づいて説明できた。彩色に使用される日本画絵具の色数は基本の数色に限られているが、その表現技法で多様性を出すことに

より、建造物に於ける豪華さと宗教空間としての非日常性を演出し構築するための大いなるツールとしての先人の工夫を開示することができた。煌びやかな表面装飾の下に、漆を用いた堅牢な下地作りを行って、紙張りによる補強を経て、ようやく極彩色がおこなえる。その緻密な作業手間に見学に来られた方も驚いていました。

漆 展 示

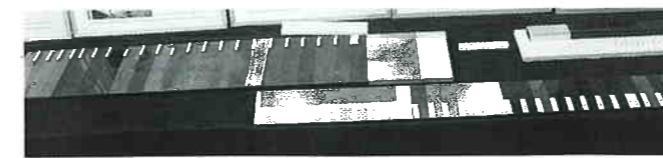
- 漆液・漆が乾くとは（パネル）
- 漆塗装工程解説24工程（パネル）
- 施工実績写真6物件（パネル）
- 漆工程見本3種
- 材料と道具一式
- 漆塗装見本4種

文化財の塗裝修復には漆による塗りが欠かせない。「漆」の言葉は広く

知られていても、実際の漆材料と各種の塗装仕上げはほとんど知られていないのが現状であると思

われる。建造物に漆塗りをおこなう場合、一般的には現在の油性塗料・水性塗料の効率的な塗装作業に近いものを想像される場合が多い。しかし実際は簡素なヘラ・刷毛の用具だけを使用し、漆・砥之粉・地之粉を少しずつ混和調整した幾種類もの材料を30〜40工程に渡って加工し続ける手作業の積み重ねである。そのところを、まず多くの方々に「漆」という言葉と

共に知って戴くことが、漆に携わる者の大きく願うところである。伝統的であり比較的簡素な材料と用具を用いて、大きく歴史的な建造物の美しさと荘厳さを再現する、その過程を一部でも、世の方々に広く感じていただければと考える。その為として、材料・用具・工程・仕上がり・施工実績をできるだけ簡便に解説できればと試みた。



絵馬の彩色ワークショップ



- 日時 平成20年11月1日(土)
- 講師 有限会社川面美術研究所より派遣。
- 概要 『彩色絵馬』の製作体験

『彩色絵馬の製作』は五角形絵馬型絵板に手本を基に絵を描いてオリジナル絵馬を作る内容である。現在一般で入手できる水彩絵具は極めて鮮やか

な色が多く、また色数も非常に多い。しかし、日本画絵具の場合は伝統的色見とそれに見合った色数となる。

その限られた色見と色数であてやかに、しかし派手ではない色合いにまとめ上げられた絵画が日本の伝統絵画には多い。今回の手本絵には、あかべこ、几帳と着物、植物花、など彩りが多いものを選び揃えた。

製作作業はまず型紙を木地に当て墨を専用の短毛硬毛刷毛で挿りこみ形状を写す。

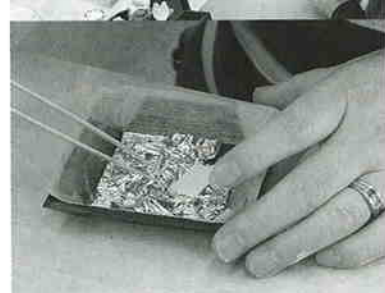
形状に合わせて白色の胡粉を下地として塗り込み、その上に順次色を重ねて仕上げていく。部分により濃淡を付けたリ、薄く隈取りをしてのばす技法なども



含まれている。基本的には絵具の混色はおこなわず、塗り重ねる場合も一定の基準がある。その技法になるのは絵具本来の発色の美しさを表現することを目的としていたことでも大きな要因の一つである。参加者は最初型紙を使う作業から非常に熱心に取組まれる方々が多く見られた。下地に白色の胡粉を塗る作業では、木地表面を滑らかにして上に塗る絵具がより鮮やかに発色するための下地である」という説明に、工程すべてが考えられ積上げられた作業であることに、伝統の製作の一端に触れたのではないか。

金箔押しワークショップ

- 日時 平成20年11月1日(土)
- 講師 株式会社さわの道玄より派遣。
- 概要 陶器、漆器に金箔押しを施してお持ち帰りいただく。



極めて薄いとはいえ、やはり金属としての重量感を感じさせるものである。その作業は貼るといっても、置いて押し込んで器に密着させることを必要とする。

- ◇金箔押し
 - 陶器（皿、箸置き、猪口、湯呑み）、塗り食器（椀、椀小皿）に金箔を貼る。
 - 金箔は一号金箔を使用して器の一部（内側、外



側）に貼る。漆性質に近い箔押樹脂液を金箔の接着剤として使用する。（かぶれ等の漆による人体への影響を考慮した。）

金箔押しは漆工芸の一部として、多くの装飾技法で表されている。工芸的装飾として彩色、漆塗り作業に接する機会が少ないが、貴金属としての金を用いた工芸技法に接することは、更に少ない機会だと思われる。ほとんどの方々が金箔押しをするのは初めての経験だったようだ。慣れない作業に苦勞しながらも、器の表面が綺麗な金に変化していく過程を体験し、日常では見られない「感動」を持たれたことと思う。

文化財を支える 文化財保存技術2008

～ 伝統の名匠展 ～



●日 時 平成20年10月26日(日)
 ●開催場所 香川県高松市高松シンボルタワー
 ●内容 文化財保存技術についての展示・実演・体験



文化庁主催で23の選定保存技術保持団体が文化財を守る伝統の技について、展示や実演でわかりやすく紹介されました。海内、横、斬新的な建造物の会場に各団体がブースを設け、パネル説明を主体に実物の展示や趣向を凝らした体験・実演が披露された。地元高松の多くの方々で賑わいました。

当協会は各会員の協力で金工・彩色・漆塗についてのパネル・製作見本の展示と見学者向けの金箔押し体験コーナーを設けました。金工・彩色・漆塗に関する展示は関連する展示を行っている団体もいくつかあり、また建造物保存技術でおなじみの展示・実演をされています。

1スも見られました。見学に来られた方々は普段、選定保存技術を見る・触れる機会がそう多くないと思います。言葉では聞いたことのある漆、表具、歌舞伎道具、浮世絵木版画彫り、などの手業の一端を具体的に見られる良い機会であったと思います。一日だけの開催でしたが参加者にとっても文化財保存技術の現状を垣間見ることができ、有意義な展示会になりました。

文化財を支える 伝統の名匠展

事例報告講演 「建造物装飾」

社寺建造物美術協議会会長 澤野道玄

社寺建造物美術協議会の澤野道玄でございます。よろしくお願いたします。ただ今ご紹介いただきましたように、昨年度、当美術協議会を選定保存技術保持団体に認定していただきまして、早速ですね、昨年度から研修事業をおこなっております。実は、昨日まで京都市の研修センターで研修会をおこなっております。認定いただくまではなかなかこういう研修会を実施するという事は経済的に難しいことではございました。なかなかこういう研修会を実施するとい

けております。漆塗り、それから建築彩色、それから金物ですね。かなりいろいろなジャンルが複合しております。大変なわけでございます。例えば、例え漆の研修会ですね。「漆下地材研究会」という研修会を開きまして、漆塗りの表面的な問題ではなしに、下地というものについて皆に集まっていたらいい研修会をいたしました。

漆の下地といいますが、皆様も少しはご存知かと思いますが、砥の粉とか、地の粉と漆を混ぜて下地を施すわけですが、これはだいたい江戸末期か明治の初めぐらいからそのような下地が施されているということでございます。それ以前の下地をもっと研究し、文化財の塗りについていかなきゃいけないという反省の下に、そういう研修会を開いておるところでございます。それが「漆下地材研究会」と申します研修会でございます。それから漆塗りにおきまして、前年度「日本産漆の塗りの研修会」というようなことを実施させていただきました。皆さんも十分ご存知だと思いますが、漆もですね、原油と一緒にございまして、ほとんどが輸入の漆でございます。ですから、国産漆を使いなれた職人さんというのがですね、現実日本にはわずかしかいらつしやらない。ほとんどが輸入に慣れた漆の技術者の皆さんなんです。そういうことで「国産漆を使う研修会」を開き、国産漆に慣れるというんですかね、そういう研修会を昨年度させていただきます。

漆の下地といいますが、皆様も少しはご存知かと思いますが、砥の粉とか、地の粉と漆を混ぜて下地を施すわけですが、これはだいたい江戸末期か明治の初めぐらいからそのような下地が施されているということでございます。それ以前の下地をもっと研究し、文化財の塗りについていかなきゃいけないという反省の下に、そういう研修会を開いておるところでございます。それが「漆下地材研究会」と申します研修会でございます。それから漆塗りにおきまして、前年度「日本産漆の塗りの研修会」というようなことを実施させていただきました。皆さんも十分ご存知だと思いますが、漆もですね、原油と一緒にございまして、ほとんどが輸入の漆でございます。ですから、国産漆を使いなれた職人さんというのがですね、現実日本にはわずかしかいらつしやらない。ほとんどが輸入に慣れた漆の技術者の皆さんなんです。そういうことで「国産漆を使う研修会」を開き、国産漆に慣れるというんですかね、そういう研修会を昨年度させていただきます。

次に建築彩色と申しまして、私どもの場合、建造物に極彩色を施したり、絵画を施されておるものを修復いたしました。復原いたしますわけですが、昨日

でおこなっております。研修会では、「彩色調査研修会」ということで、一体どのような文様が描かれ、どのような絵具が使われているのか、そういうことの調査技術を向上させていただいております。おつた次第です。

本当に肉眼ではなかなか目に見えないような痕跡を、このように調査するというものが綿密になされませんと、正しい復元というものはできないわけですので、そういう技術者をたくさん養成していかないと、今後彩色の復元というのは難しい壁に当たるのではないかと考えております。また「丹塗り研修会」というものも行ってまいります。丹塗りというものは神社等に真っ赤に塗られておるもの、装束されているものです。文化財指定以外の神社を探しまして、そこを実際に塗らせていただくというような研修会でございます。丹塗りは、鉛丹と申しまして、鉛を原料にしてあの赤い色でございます。ケレンをいたし

ます場合でも、防毒マスクをいたしますので、防毒マスクのかけ方からケレンの仕方から実地に塗装するまでを研修するわけですね。それと同時に、建築彩色、丹塗り等に膠(にかわ)というものを使うわけですね。皆さんもご存知だと思います。膠は牛や鹿やウサギやそういう動物の膠質を抽出するわけなんですけれども、現在日本で膠を製造していらつしやるところがほんのわずかになってしまつていて、今後は実際に施工する者がですね、膠を作つていかなないと、これはちょっといかにぞという難しい状況に追い込まれております。鹿や牛の皮を取り寄せまして、毛をむしりましてそれをグツグツグツグツ煮るわけですね。そういうことを今後やっていかないといいないなと思つております。

それと現在作られております膠は、漂白剤とかいろいろなもの添加されておりまして、接着力がないわけですね。例えば、私ども京都にも高松の伝統文化があつ

の牛車がございますが、そこに齋王大(さいおうだい)が乗られまして、それを牛が引くわけですね。現在、葵まつりのために、牛を二頭飼つておられるそうです。それ以外は別に牛は運動も何もしてないわけですね。ですから、御所を出るまでもう交代ですわ。それぐらい運動不足ですからね、膠質も大変落ちています。

昔の牛はですね、農作業から荷車の運搬からという運動しておつたわけですね。ですから、膠も非常にいいものが取れたわけですね。私どもの協議会では非常に大きな問題になっておりまして、今後膠を自分たちの手で作つていくような方向でやつていこうという話になるわけですね。実際、まだまだ試作段階でございますので、それが本当に文化財に使用されるまではもう少し時間がかかるかと思つております。

平成21年度 建造物装飾技術研修事業予定

- 1. 建造物装飾技術国内・海外研修** (対象：初任者・中級技術者)
 - ◇研修人員 2名 (国内研修：1名 海外研修：1名)
 - ◇研修期間 国内研修：平成21年7月1日～平成21年11月30日 海外研修：上記期間中で研修生が選択。
 - ◇研修地域 国内研修：日本国内の各地域。 海外研修：研修生の選択テーマ地域。
 - ◇研修内容
 - 【国内研修】当協議会に登録している技術者研修生が、建造物装飾の中から今後練習し伝承したい研究テーマを選定し、毎月国内各地に赴き調査、研究、手板見本・サンプルなどの製作を実施し、その行動と成果を報告書にまとめて提出する。
 - 【海外研修】建造物装飾についての研究テーマを海外にまで広げ、現地へ赴いて調査・研究を行い、その成果を報告書にまとめて提出する。海外研修では、海外の文化財建造物や修復現場、各研究機関等を中心に、テーマに応じて材料店や生産地なども訪問する。
- 2. 会員研修会** (対象：会員)
 - ◇研修人員 12名 ◇研修期間 平成21年10月16日～10月17日 ◇研修内容 講義・見学11時間
 - 大分県の宇佐八幡宮や国東の文化財建造物を視察する。
- 3. 後継者養成実技研修会**
 - ◇研修人員 10名 ◇研修期間 平成21年8月・9月・平成22年2月(この間の10日間)で実施 ◇研修内容 実習70時間
 - 昨年度と同様に、近畿・関東地域の各種美術工芸教育機関にも窓口を広げて研修生を募集する。文化財建造物装飾に関心のある後継者を会員各事業所に受け入れ仕事の実験を体験してもらうことで、人材の確保に繋げる。
- 4. 固有技術向上研修会**
 - 丹塗技術研修会** (対象：初任・中級技術者研修)
 - ◇研修人員 5名 ◇研修期間 平成21年6月1日～6月6日 ◇研修内容 実習40時間
 - 前年度、京都市の武信稲荷神社でおこなった研修では瑞垣の塗装をおこなった。今年度も同神社でケレンから上塗りまで一貫して、丹塗技術の実際を実物を用いて実技研修する。
 - 彩色調査検討会** (対象：主任技術者研修)
 - ◇研修人員 7名 ◇研修期間 平成22年2月9日～2月13日 ◇研修内容 実習40時間
 - 建造物に残存している彩色塗膜の文様や絵画の目視調査、赤外線調査及び光学調査等を行い、建造物彩色の調査方法の実際を研修する。現状の模写・白描図による記録、類別調査なども行う。
 - 建造物装飾総合技術研修～漆研修** (対象：初任者)
 - ◇研修人員 10名 ◇研修期間 平成21年6月～11月
 - ◇研修内容
 - 漆・金工・彩色等の複合した建造物装飾技術の展示品の模型作りをおこなう。初年度は漆・彩色研修として実物大のお社の模型を用いて、それぞれの各会員事務所で作業を分担して建造物装飾の実技研修を実施する。

たと思います。あつたと思
いますという、今はない
ような言い方になりますけ
れど、それは全国共通の問
題だと思えますね。昨今、
グローバル社会、グローバ
ル経済ということで、金融
の世界では非常に世界的で、
アメリカが風邪を引いたら
世界中が全部肺炎で倒れる、
というような現状かと思
います。そのようにグローバ
ル社会というものは今後の
動向によりまして、行き詰
つてくると思います。

しかし、このローカルな
伝統文化というものはです
ね、絶対に行き詰らせては
駄目だと思えます。江戸時
代には300の諸侯がい
らっしゃったわけです。日本
には、入り江や盆地や、それ
から平野や、いろいろ集め
ますと300くらいあるら
しいですね。ですから、日
本には300の文化があつ
たというのが、私が常々感
じておるところであります。
文化財の修復、伝統文化
の再生、そういうことはで
すね、社会的使命をもつて
いたしませんと、なんら働
き甲斐がないわけではござ
いまして、その社会的使命と
いうものを十分に認識して、
この仕事をやっていきたい
というのが当協議会の皆の
考えでございます。

先ほど文化力というお話
を鑑査官さんがお話されま
したけれど、やはり文化力
というものがこれからの日
本の根底を支えるようにな
っていきまないと、経済が
弱つたら何もかも駄目だと
いうような国家では、私は
駄目だと思えます。

文化力によって、人のあ
り方、例えば人間性の復権
あるいは人としての尊厳と
いったものを問いかけてい
かないと、文化力は本当の
文化力にならないのではな
いかと常々感じておるとこ
ろでございます。そのよう
なことで、今後とも研修事
業を通じて文化力を育
み、頑張つてまいりたいと
覚悟しておりますので、皆
様どうぞ宜しくご支援のほ
どお願いいたします。事
例報告とさせていただきます
と思います。ありがとうございます。

昨年10月から事務局
の担当をさせていただきました
ことになりました。担当変
更によりご迷惑をおかけ
いたしました。皆様から
ご指導いただき、無事に平
成20年度研修事業を終え
ることができました。あり

がとうございました。
来年度からの研修は、今
年度にはなかつた総合研
修が始まります。総合研修
はひとつの社を各事業所
で分担して装飾を施して
いく研修になる予定です。
会員の皆様にとつても、他
から参加される皆様にと
つても実のある研修事業
になるように事務局とし
てサポートさせていただきます
ので、宜しくお願
いいたします。

社寺建造物美術協議会
事務局 四元晴美

「社寺建造物美術協議会」名簿

(五十音順)

平成21年3月

	法人名(個人名)	代表者名	住所	TEL・FAX番号
1	(株)大谷相模掾鑄造所	大谷 哲 秀 (大谷秀一)	〒537-0011 大阪市東成区東今里2-6-20	TEL 06-6971-6571 FAX 06-6971-6511
2	(株) 片 山	片 山 富 夫	〒601-8303 京都市南区吉祥院向田東町10	TEL 075-322-1236 FAX 075-316-6333
3	(有)川面美術研究所	荒 木 かおり	〒616-8242 京都市右京区鳴滝本町69-2	TEL 075-464-0725 FAX 075-464-0099
4	岸野美術漆工業(株)	岸 野 勲	〒321-1404 栃木県日光市御幸町587-2	TEL 0288-53-3366 FAX 0288-54-0072
5	(財)塩尻木曾地域 地場産業振興センター	小 口 利 幸	〒399-6302 長野県塩尻市木曾平沢2272-7	TEL 0264-34-3888 FAX 0264-34-2832
6	(株)小西美術工藝社	小 西 美 奈	〒108-0014 東京都港区芝4-4-5 三田KMビル3F	TEL 03-5765-1481 FAX 03-3455-9250
7	(有)齋藤漆工芸	齋 藤 敏 彦	〒250-0631 神奈川県足柄下郡 箱根町仙石原1285-381	TEL 0460-84-2802 FAX 0460-84-0770
8	(株) さ か い	酒 井 清	〒520-2331 滋賀県野洲市小篠原7-1	TEL 0775-87-1178 FAX 0775-87-5355
9	(株) さ わ の 道 玄	澤 野 道 玄	〒604-8232 京都市中京区錦小路通 油小路東入る空也町491	TEL 075-254-3885 FAX 075-254-3886
10	(株)はせがわ美術工芸	三 好 金 司	〒822-0011 福岡県直方市 大字中泉字今林885-26	TEL 0949-24-7211 FAX 0949-24-7221
11	(株)細川社寺巧藝社	細 川 夫 美子	〒651-2242 兵庫県神戸市西区 井吹台東町1-5-13-301	TEL 078-997-7178 FAX 078-997-7179
12	邑 田 漆 芸 (株)	邑 田 正 廣	〒607-8355 京都市山科区 西野大鳥井町118-45	TEL 075-591-4137 FAX 075-502-0638
13	(株)森本鋳金具製作所	森 本 大 隆	〒600-8321 京都市下京区楊梅通 西洞院東入ル八百屋町59	TEL 075-351-3772 FAX 075-361-8877
14	(有)横山金具工房	横 山 智 明 (横山義雄)	〒601-8394 京都市南区吉祥院 中河原北町14-3	TEL 075-325-4861 FAX 075-325-4862